

---

# 教育総合センター

## だより

---

NO. 159

令和 3. 3. 1



### 教育における多様な視点と 多面的取組について

こども教育支援課

課長 真島 清行

近年、教育における課題については、「多様化・複雑化」していると言われている。昔、わが子の小学校時代に漢字のテストがあり、前日の夜、いきなり子どもが「あした、漢字のテストやねん」と言い出した。親ばかりにも、夜おそくまで勉強に付き合い、翌日、子どもにテストの「でき」を聞いたところ、「今日、テストなかった」との返答があった。「え？なんで？あんなに頑張ったのに。先生何してるん？」と疑問とともに不信感を抱いたものだ。また、ある校長先生からは、生徒指導について、「150 キロの剛速球はいずれ投げることとはできなくなる、130 キロを早く見せるために、いろいろな変化球を駆使して130 キロを早く見せる（効果的に）必要がある」と言われた。

この度、3年ぶりの教育委員会での職務となったが、平成27年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正」により、本市にも、「総合教育会議」が設置され、教育行政において、市長部局と教育委員会との十分な意思疎通を通して、本市の教育の課題やあるべき姿を共有し、より一層市民が求める取組が進められるよう体制づくりが行われている。

先述のわが子の話だが、私も社会科の教師として、「明日、小テストするぞ」と言いながら、当日、こちらの事情でテストを実施しないこともあり、生徒の努力と保護者の思いを裏切る対応を行ったこともあった。今考えると、教師としての発言や約束の重みを認識し、子どもや家庭の視点にも立った対応ができていなかった。また、生徒指導に

ついては、どのような球で勝負するのか、打者に対してどのような球が効果的なのか、「打者の見極め」が非常に大切なことということだ。

よく、教師のスキルにおいて、「感度を高く」という言葉で表現されるが、非常に抽象的な言葉だと思う。私なりの「感度を高く」の理解だが、具体的には「多様な視点を持つ」ということだと考えている。子どもや保護者を理解したり、課題を捉えたりするとき、様々な角度から見つめ、捉えることが最も基本的であり、大切なことだと考える。

古くは、仏教説話にも、目の不自由な（例として）法師が集まり、象を表現するときに、鼻をさわる法師は「象は細長い動物」だといい、足をさわる法師は「太くて丸木のような動物」だといい、胴をさわる法師は「巨大な動物」だという。それぞれに間違いではないが、実態を表すものではない。

現在、私は「いくしあ」において、教育相談や不登校についての取組を行っているが、ここでは、教育委員会と市長部局が連携し、それぞれの視点においてアセスメントを行い、組織的・多面的な支援の取組を推進している。教育も時代とともに変化し、教師として教育者として、子どもを見つめる視点を変化させ、多様化させ続けなければならない。子ども理解の視点は多ければ多いほどいいし、多面的な取組へと繋がる。私自身これからも視点を増やすために学び「感度を高め」、教師として成長し続けたいと思う。

# ☆☆ 尼崎市版GIGAスクール（AGS）を推進するために ☆☆

## 1 はじめに

尼崎市版GIGAスクール（以下、AGS）の概要については、前号で学校ICT推進担当 岡西課長より説明のあったとおり、令和3年3月末までに児童生徒用端末として小中学校ではChromebookが、特別支援学校ではiPadが1人1台整備されます。

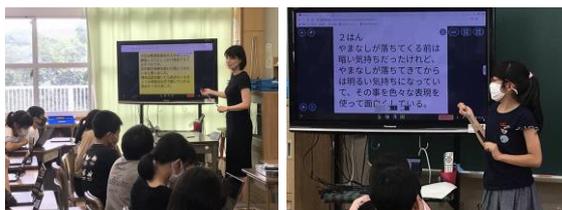
Society5.0時代を生きる子どもたちにとって、PC端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっています。そのため、ICTを基盤とした先端技術を活用して「子どもの力を最大限に引き出す学び」を実現していく必要があります。

## 2 新しい授業スタイルに向けて

本市では、AGSの推進に向けて各学校でスムーズにタブレット端末を活用した学習を行うことができるよう、小・中・高等学校で次のような取組を行っています。

### (1) 小学校での取組

上坂部小学校では、1人1台のタブレット端末とロイロノート・スクールを活用した国語科と外国語科の新しい授業スタイルづくりに取り組んでいます。ロイロノート・スクールを使うことで、先生からの配布資料などが配信できます。



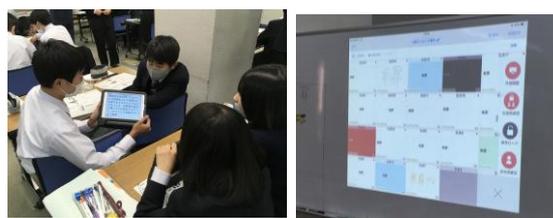
国語科で子どもたちは、自分の学びをカードに書くことで、作ったカードを先生に提出したり、カードをつなげたり、並び方を変えたりしたものをクラスで共有することで学びを深めています。



外国語科では、写真を元に自分の思い出を英語で伝えたり、英語での会話をよりよくするためのアドバイスの視点を共有したりすることに取り組んでいます。その活動の中で、タブレット端末で会話を録画することで、他のグループの人たちからアドバイスをもらったりしながら、英語での会話を楽しく有意義に学ぶことができました。

### (2) 中学校での取組

中央中学校では、3年生社会科の裁判員制度の学習でロイロノート・スクールを活用しました。事件の目撃者の証言ビデオを視聴後、ペア→グループで相談し、さらにカフェテリア方式で他のグループや参観者から意見を聞き、それぞれ裁判員として判断をしました。タブレット端末を使うことで、有罪か無罪かの全員の意見がホワイトボードに映し出され、活発な意見交流が行われました。



### (3) 高等学校での取組

尼崎双星高校では、既存のコンピュータ教室においてG Suite for EducationのJamboardを使いメディアリテラシーを高める学習を行いました。自分の意見をデジタル付せんを書いて共有し、これからの画像を扱うサービスのあり方について活発な意見交換を行っていました。



## 3 AGSの日常化に向けて

このように、尼崎市においてもAGS推進のための取組を盛んに行っています。AGSが特別なことから日常化に向かうために、最新の情報を教育総合センターのホームページを通じて発信していきます。

(学校ICT推進担当 米田 浩)

## ☆☆ 令和2年度 兵庫県内教育研究所連盟 研究発表大会 ☆☆

尼崎市立教育総合センターは、県内の教育施設で構成する、兵庫県内教育研究所連盟に加盟しています。この兵庫県内教育研究所連盟の研究発表大会が25年ぶりに令和2年11月19日(木)尼崎市立教育総合センターにおいて実施されました。

研究発表大会では、県内の教職員教育施設の関係者が集まり、各研修施設の中で、今年度行われた研究をいくつか発表します。また、例年、著名な方を講師としてお招きし、講演会も行われています。

今年度、新型コロナウイルスの感染拡大により、県担当者との打ち合わせの中で、中止の可能性とオンライン開催での実施になるかもしれないということで、日々新型コロナウイルス関連のニュースをチェックしながらコロナ禍でも通常通り開催できるよう、あらゆる可能性を考えながら実施に向けて動き出しました。会場の椅子と椅子との距離や換気、密を避ける人の流れを作る為の表示や経路などに工夫をこらし、ソーシャルディスタンスを確保しました。来場者には入場前に検温を実施し、入場の際にはアルコールでの消毒の徹底をお願いしました。講師や研究発表者からの飛沫対策については、他の研究発表大会などを参考に、アクリル板のつい立やフェイスガード等、こちらでできる限りの対策はできたように思います。

新型コロナウイルス対策だけでなく、来られた方の心が和らぐように、花壇に花を植え、立て看板や横断幕を書家 小林 章郎 氏に依頼し、厳かな会場を設営することができました。実施するにあたり何が必要か、シミュレーションしながら、課内で調整を何度も行い、ようやく実施にこぎつけることができました。集合型のこのような大きな大会が新型コロナウイルスの関係で実施しにくい状況にもかかわらず、当日は県下から100名以上の方の参加があり

ました。

午前中に行われた講演会では、元全日本女子バレーチーム監督 柳本 晶一 氏を講師に迎え、「リーダーを育てるーバレーボールの指導を通してー」というテーマで講話をしていただきました。研究発表大会前から、一体どんな話が聞けるのか、職員の誰もが楽しみにしていました。このような状況の中でも快く講演を引き受けていただきました柳本氏には、大変ありがたく思っております。

柳本氏の話には、監督当時の苦労話から代表選手を指導するスキル等、教員研修に通じるものがたくさんあり、大変有意義な講演会となりました。

柳本氏は、現在、尼崎市の体罰防止に向け、尼崎市教育委員会の顧問として、その手腕をふるっていただき、令和2年12月22日には大阪市立桜宮高校と尼崎市立尼崎高校との友好連携に関する協定を結びました。

午後からは、12本の研究発表(うち2本が紙面発表)があり、各機関から今年度の研究が発表されました。尼崎市からは、学び支援課 桐山課長が「尼崎市の学力向上戦略」というテーマで発表しました。全員が初めての研究発表大会の運営側でしたが、学び支援課全体で役割分担をし、都度気づいたことを話し合うことで、当日は大きなトラブルもなく無事に終えることができました。

今回の研究発表大会を通して、新しく見えてきたこともありました。このような状況であっても、多くの方に来ていただくことができ、先生方の学ぼうとする意欲は、本当にすばらしいと思えました。

来年度は、加古川市での開催となります。今から非常に楽しみです。

(研修担当係長 福山 圭介)

## 教育情報コーナーのお知らせ

### ☆教育情報コーナーのご案内

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。教育総合センターでの研修や会議の時など、ぜひお気軽にお立ち寄りください。また、必要な図書、資料等のご相談にも応じております。お気軽にお尋ねください。（3F 教育情報コーナー）

#### 【新着図書】

- ・『ゼロから学べるオンライン学習』 石井英真 監修/明治図書出版
- ・『スタンフォードが中高生に教えていること』 星 友啓 著/SBクリエイティブ
- ・『10年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方』 木村泰子 著/青春出版社
- ・『GIGAスクールで実現する新しい学び』 赤堀侃司 著/東京書籍
- ・『なんのために学ぶのか』 池上 彰 著/SBクリエイティブ
- ・『withコロナ時代の新しい学校づくり』 村川雅弘 著/ぎょうせい
- ・『危機に立つSNS時代の教師たち』 多賀一郎 著/黎明書房
- ・『甲子園の負け方、教えます。』 澤田真一 著/報知新聞社
- ・『ポスト・コロナの学校を描く』 「教職研修」編集部 著/教育開発研究所
- ・『教師にできる自殺予防 子どものSOSを見逃さない』 高橋聡美 著/教育開発研究所



(担当 松浦)

### ☆教育総合センターは、知の宝石箱！ ひと咲きタワーは、学びのタワー！

#### 【本の紹介】

■『成長しない子はいないー生まれ変わっても教師になりたい』（大修館書店 2017年8月20日初版第1刷発行）著者 仲島正教：現在、尼崎市教育委員会教育委員。西宮市で小学校教師21年。西宮市教育委員会人権教育室指導主事、学校人権教育課係長4年務め、2005年48歳で退職後、全国各地で講演、研修を行う。

本書は体育科教育エッセイの2009年4月号から8年間をまとめたもの。現在も引き続き12年間執筆。教育の醍醐味を具体的事例、経験に基づいて執筆されている。エッセイの一つ一つにドラマがある。パラリンピックをめざす教え子の車いすのアスリート、筆者の講演をきっかけとした鳥取県琴浦町の「10秒の愛キャンペーン」、筆者の考案した体育の「30cmマット」、優しさや愛情でいっぱい「心の銀行に貯金を」、「運動会は運動の仕方だけでなく、生き方を学ぶ絶好の機会」など、教育への熱い思いが伝わってくる。教育あまがさき第87号（R3.3.1発行）の「教育の心」『ダウンタウン松ちゃんの名言』を執筆される。読むとずっと筆者の教育観を知りたくなってくる。本書は、教育はこんなにすばらしいものだというメッセージとともに文章から映像が浮かんでくる。若い先生方には是非読んでいただきたい本である。

■『未来の学校 ポスト・コロナの公教育のリデザイン』（日本標準 2020年9月25日 第1刷発行）

著者 石井英真（いしいてるまさ）京都大学大学院教育学研究科准教授、博士（教育学）。

臨時休業期間中の子どもたちと教師の間の一種の「遠距離恋愛状況」が生み出した「程よい距離感」を保ちながら、不登校の子どもたちを増やさず、学校に通いたくなるような、そんな授業づくり、学校づくりをめざす原点を失ってはいけない。日本の教師たちは、徳育と知育を機械的に切り分けず、学級をつくりつつ授業をつくってきた。子どものつまずきを生かしながらみんなでわかっていく、練り上げある創造的な一斉授業など、日本の教育実践の遺産から学ぶことは多いと言う。また、自分をコントロールする力などの「非認知能力」の育成は、教科外活動の中で取り込まれてきた。学級会、掃除、日直など、教科外活動のノウハウは「日本型教育」として、諸外国に輸出すらされている。日本の学校は、みんな学び、みんなでクラスの問題を解決したりするなかで社会性や人格をも育てる「共同体としての学校」として普及発展してきた点を再認識すべき。わかるようになりたいという子どもたちの願いに寄り添い、どの子も見捨てない、みんなが輝く学校づくりなど、本書はポスト・コロナの学校のリデザインを示唆する。

※教育総合センターには、すてきな本がたくさんあります。

(担当 谷口)